Keio University
慶應箱根駅伝プロジェクト
NEWS LETTER
2021年 1月

第97回東京箱根間往復学生駅伝競走 ご報告

撮影： 4years 佐伯航平様

杉浦慧（政3・成蹊）が関東学生連合チームの主将として、5区（小田原～箱根）を走りました。慶應義塾の選手が箱根駅伝に出場するのは、第94回大会で根岸祐太が8区を走って以来3年振りのことでした。

今回は急遽山登りの特殊区間に任命されたため、準備期間が非常に限られていたものの、できる限りのことをしてレースに臨みました。結果は1時間19分38秒で区間21位相当（学生連合はオープン参加のため参考記録扱い）と、本人にとっては不本意なものでしたが、来年チームとしての本選出場を目指す上で、非常に貴重な経験を得ることができました。

今大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、各校とも沿道での応援は自粛となりましたが、テレビやラジオ、SNSなどを通じて本当にたくさんの方々に応援をして頂きました。心より御礼申し上げます。

杉浦 慧（政3・成蹊）

この度はたくさんの応援、本当にありがとうございました。今回、関東学生連合チームにおいて主将と5区を務めるという貴重な経験をさせて頂きました。

10月の予選会の後は、想像以上にその疲労を引きずり、記録会では思うような走りができませんでした。ただ、12月中旬の学生連合の合宿では、他校の選手たちを間近に見ることで、慶應の強みと弱みを再確認できました。コロナ禍で集合できる機会が限られる中、短期間のうちに学生連合チームをまとめるということは非常に難しかったですが、チーム運営に対し初心に帰って向き合えたので、大切なことや必要なことを学べました。

肝心の本番、自分の走りは区間最下位という不甲斐ないものになってしまいました。コース分析には特に注力し、調子も悪くなく、準備はできていたと思います。反省点としては、風と、そして何より箱根駅伝を見誤っていました。私にとって、箱根駅伝は夢であり憧れの舞台でした。出ることを目標にしている僕のような選手では、他校の選手には太刀打ちできないし、まだ見ている世界が違うと感じました。しかし、夢の舞台は確かにあそこにありましたし、走り切れました。走り終わって悔しいとも思えました。来年また戻って、その成長をお見せできるよう、ラストイヤーもチーム運営を頑張ります！

保科 光作（長距離ヘッドコーチ）

今回は関東学生連合チームではありますが、杉浦が5区に任命されて出走させて頂きました。結果は、本人も私も満足できるものではありませんでしたが、箱根駅伝本選までのプロセス全てを経験として、来年につなげて欲しいと思います。

関東学生連合チームのコーチングスタッフ、そして平素よりご声援頂いている皆様に、このような機会を頂きましたことに感謝をするとともに、関東学生連合チームの皆さんにはライバルとして、ご声援頂いている皆様には結果で恩返しができるよう、本年も全力で精進して参りますので、引続きのご声援、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

小野 裕幸（長距離コーチ）

杉浦の箱根駅伝出場にあたり、多大なるご支援、ご声援をいただき誠にありがとうございました。山登りの適性、事前の準備期間の差などもありましたが、本来の力を発揮することができず、箱根駅伝で結果を出す難しさを痛感する形となりました。ただ、杉浦自身が箱根駅伝の調整の難しさ、他大学のレベルの高さを身をもって経験し、この経験をチームに還元できることを考えれば、今回の箱根出場は予選会突破に向けて有意義であったと思っています。また、2年生の中心選手である前原が現地で給水を行い、箱根駅伝の空気感を肌で感じられたことも、今後のチームには大きなプラスになっていくと感じています。

今回の箱根駅伝は波乱も多く、ミスなく走り切ることの重要性を改めて思い知らされる大会でもありました。これは当然予選会にも言えることですので、速いだけでなく、強い選手の育成ができるよう精進してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご声援の程よろしくお願いいたします。

前原 裕磨（政2・熊谷）

1月2日に、杉浦さんの給水係としてお手伝いをさせて頂きました。私が給水したのは7.1キロ地点、大平台のヘアピンカーブのところでした。現地で感じたことは沢山ありましたが、その中でも特に印象的だったことが2つあります。

1つ目は、箱根駅伝には唯一無二の雰囲気があったということです。数え切れないほどのテレビスタッフ、カメラ、そして補助員の方々に囲まれていた箱根路は、無観客とはいえ他の大会では感じることのない、厳かで緊張で張り詰めた雰囲気がありました。

2つ目は、その雰囲気の中で走る選手たちが、とても輝いていたということです。給水地点に選手が来てから、現場の雰囲気は一気に変わりました。急なコースや寒さという過酷な5区に果敢に挑む選手たちは、とても気迫があり輝いて見えました。杉浦さんもそのうちの1人です。彼らの走りを目の当たりにして、強い憧れと悔しさを覚えました。来年は関係者ではなく当事者として箱根駅伝を迎えられるように、この1年間チームとしても個人としても頑張りたいと強く思いました。

慶應箱根駅伝プロジェクト事務局 hakone-pj@keio-tf.org （ニュースレター担当：関西智之／細萱智大）

慶應箱根駅伝プロジェクト公式サイト https://hakone-pj.keio-tf.org **慶應義塾体育会競走部公式サイト** http://keio-tf.org

その他試合結果（主要成績のみ*）

* 今号では10月下旬以降の競技会における、PB（自己記録更新）とインカレ標準記録の新規突破分のみを掲載

平成国際大学長距離競技会（10月24日）

森田　剛史	（経2・慶應湘南藤沢）	5000m	14’15”03	PB **塾新！！** 関東インカレB標準突破
前原　裕磨	（政2・熊谷）	5000m	14’16”38	PB 関東インカレB標準突破
司代　隼	（政3・希望ヶ丘）	5000m	14”27”38	PB
内藤　拓海	（商3・大東文化一）	5000m	14’33”48	PB
前田　拓海	（法3・新潟）	5000m	14”50”53	PB
朝倉　万響	（商2・大宮開成）	5000m	15’00”40	PB
前田　大河	（商3・新潟）	5000m	15’12”76	PB
大澤　太我	（法2・國學院久我山）	5000m	15’25”35	PB
葛西　直樹	（理1・慶應義塾）	5000m	15’57”39	PB

東京陸協ミドルディスタンス・チャレンジ（10月27日）

河野　慶太	（環2・大分東明）	1500m	3’54”74	PB 関東インカレB標準突破

国士舘大学長距離競技会（10月31日）

金子　大将	（環4・明大中野）	5000m	14’48”07	PB
大澤　太我	（法2・國學院久我山）	5000m	14’53”60	PB

日本体育大学長距離競技会（11月14日～15日）

河野　慶太	（環2・大分東明）	1500m	3’50”96	PB 関東インカレA標準突破　全日本インカレB標準突破
清水　拓哉	（法3・逗子開成）	5000m	14’16”41	PB 関東インカレB標準突破

平成国際大学長距離競技会（11月21日～22日）

司代　隼	（政3・希望ヶ丘）	10000m	29’17”23	PB 関東インカレA標準突破　全日本インカレB標準突破
黒澤　瑛紀	（総1・新島学園）	10000m	29’44”24	PB
清水　拓哉	（法3・逗子開成）	10000m	29’53”91	PB
大上　椋輔	（経2・南山）	5000m	15’40”86	PB

東海大学種目別競技会（11月29日）

清水　拓哉	（法3・逗子開成）	5000m	14’07”21	PB **塾新！！** 関東インカレA標準突破
黒澤　瑛紀	（総1・新島学園）	5000m	14’28”52	PB

国士舘大学長距離競技会（12月13日）

黒澤　瑛紀	（総1・新島学園）	5000m	14’17”31	PB

関東インカレ参加標準記録突破者一覧*

	A標準	B標準
1500m	(3’51”50) 河野慶太	(3’55”00) 該当なし
5000m	(14’12”0) 清水拓哉	(14’22”0) 森田剛史，前原裕磨，黒澤瑛紀
10000m	(29’30”0) 司代隼，杉浦慧，印藤剛	(29’50”0) 森田剛史，黒澤瑛紀，前原裕磨
3000mSC	(9’08”00) 該当なし	(9’18”00) 該当なし
ハーフマラソン	(10000m 30’15”0, 20km 1:02:10, ハーフマラソン1:05:30のいずれか) 杉浦慧，司代隼，前原裕磨，森田剛史，印藤剛，清水拓哉，貝川裕亮，朝倉万響，内藤拓海，鈴木輝，前田拓海	

* 新年度の大会要項がまだ発表されていないため、前回大会の参加標準記録を2019年1月1日以降に突破した選手をすべて掲載

慶應箱根駅伝プロジェクト事務局　hakone-pj@keio-tf.org　（ニュースレター担当：関西智之／細萱智大）
慶應箱根駅伝プロジェクト公式サイト https://hakone-pj.keio-tf.org　**慶應義塾体育会競走部公式サイト** http://keio-tf.org

Keio University
慶應箱根駅伝プロジェクト
NEWS LETTER
2021年 1月

慶應箱根駅伝ラッフル 2020-2021　寄付および景品ご提供のお願い

慶應義塾体育会競走部は、2017年4月より慶應箱根駅伝プロジェクトを始動し、その強化に取り組んでおります。プロジェクト初年度から関東学生連合に根岸祐太が選出され、2018年1月の本選において復路8区を疾走しました。昨年度も司代隼（政3・希望ヶ丘）が関東学生連合のメンバーに選出されましたが、残念ながら補欠に回りました。そして今号でご報告の通り、今年度は杉浦慧（政3・成蹊）が関東学生連合の主将として5区を走りました。

杉浦と司代は、慶應箱根プロジェクトの開始を知って、「慶應で箱根を目指す」という明確な意思を持って入学してきた、いわばプロジェクト1期生です。そして、この**プロジェクト1期生達が最終学年を迎える来年度は、いよいよ本選出場が射程距離に入ってきました。**3年前に根岸が箱根を走った際には、『根岸が10人いれば、チームとして箱根に出られる』と考えていました。記録だけで単純比較をすれば、現在のチームには根岸よりもハーフマラソンの自己ベストが速い選手が、既に9人育っています。

スポーツ推薦制度がなく、高校時代は無名だった選手ばかりのチームが、たった数年の間にここまで力をつけることができたのは、ひとえに保科、小野両コーチの指導力と、学生達の熱意や創意工夫の賜物です。**慶應の育成力は、いまや学生長距離界において注目を集める存在となっています。**

そして、この育成現場を支えるのに不可欠なのが、安定的な強化資金です。慶應箱根駅伝プロジェクトでは、強化資金の確保を目的として、2018年度と2019年度にラッフル(※)による寄付金を募集したところ、2年間で総額334万5千円のご支援を頂きました。無償で景品をご提供頂いた多くの企業・団体・個人の皆様と、ラッフルを通じてご寄付を頂いた方々に、心より厚く御礼申し上げます。そして、**勝負の年となる2021年分の強化資金として、慶應箱根駅伝ラッフル2020-2021の寄付受付を開始しました。**

つきましては、本プロジェクトの趣旨にご賛同頂ける皆様におかれましては、今年度も引き続き、ラッフルへのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

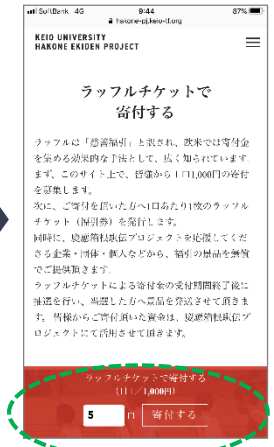
※ ラッフルは「慈善福引」と訳され、欧米では寄付金を募る効果的な手法として、広く活用されています。寄付者へラッフルチケット（福引券）を交付し、慶應箱根駅伝プロジェクトを応援してくださる企業・団体などから無償でご提供頂いた様々な景品の抽選を行い、当選した寄付者へ景品を送付させて頂きます。

1．ラッフルチケット購入によるご寄付

スマートフォンやPC上の簡単な操作で、慶應箱根駅伝プロジェクトの公式サイトからご寄付頂けます。

「慶應 箱根」で検索
https://hakone-pj.keio-tf.org/

「プロジェクトを支援する」をクリック



寄付の口数を入力して
「寄付する」をクリック

クレジットカード
またはAmazon Payで
寄付完了

慶應箱根駅伝プロジェクト事務局　hakone-pj@keio-tf.org　（ニュースレター担当：関西智之／細萱智大）
慶應箱根駅伝プロジェクト公式サイト https://hakone-pj.keio-tf.org　**慶應義塾体育会競走部公式サイト**　http://keio-tf.org

2．ラッフルへの景品のご提供

企業・団体・個人の皆様から、ラッフルの景品の無償でのご提供を募集しております。ご提供頂く景品は、慶應義塾や駅伝、陸上競技、スポーツとの関連性がないものでも、慶應箱根駅伝プロジェクトへの寄付者に喜んで頂けそうな物品であれば、何でも結構です。

例）スポーツグッズ、健康食品・サプリメント、その他食品・飲料、衣料品、日用品、文具・玩具、家電製品、各種チケット類（旅行券・宿泊券、食事券など）など

恐れ入りますが、食品・飲料等につきましては、衛生管理上の都合により、生もの・温度管理が必要なもの、賞味期限が短いものなどはご遠慮ください。

景品のご提供をご検討頂ける場合には、以下の慶應箱根駅伝プロジェクト事務局のメールアドレスにご連絡ください。

hakone_raffle@keio-tf.org

3．スケジュール（予定）

強化資金ご寄付の受付期間：　2020年10月11日 ～ 2021年3月31日

ラッフル景品ご提供の受付期間：　2020年10月11日 ～ 2021年2月20日

当選発表時期：2021年4月

景品発送時期：2021年4月

4．その他

景品をご提供頂いた企業・団体・個人様につきましては、慶應箱根駅伝プロジェクト公式サイトのラッフル特設ページにおいて、ご提供者名、ご提供物品の名称・紹介文を掲載させて頂きます。

景品のご提供にあたり、当方への送料はご負担いただきますようお願い申し上げます（当方より当選者への送料は当方にて負担させて頂きます）。

今年度のラッフル景品のご提供のご連絡は、2021年2月20日まで受付をいたします。